

令和2年第6回 網走市教育委員会会議録

令和2年7月13日（月）午後4時00分 西庁舎2階会議室に招集した。

1. 出席者は次のとおりである。

教育委員 富永 雄一 ・ 中山 真弓 ・ 益村 公人 ・ 伊藤 亮人
教育長 三島 正昭

2. 会議の議案は、次のとおり。

議案第1号 令和2年度一般会計補正予算要求について【非公開】【原案可決】

議案第2号 網走市立学校における働き方改革推進プランの改定について

【公開】【原案可決】

議案第3号 第4次網走市子ども読書活動推進計画について【公開】【原案可決】

3. 説明のため出席した者は、次のとおり。

学校教育部長 林 幸 一
社会教育部長 吉 村 学
学校教育部次長 小路谷 勝 巳
学校教育課長 小 松 広 典
図書館長 本 橋 洋 樹

4. 会議の書記は、次のとおり。

学校教育課庶務係長 高 木 力

5. 会議の署名委員は、次のとおり。

本日出席委員全員及び教育長

三島教育長

ただ今から令和2年第6回網走市教育委員会を開会いたします。
本日の出席委員は教育委員4名と教育長が出席をしております。

本日の会議録署名委員の指名ですが、出席をされている委員全員と教育長といたします。

次に、第3回教育委員会、及び第4回臨時教育委員会の委員会会議録につきまして、記載した事項に関して何かご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。

特になければ、会議録は調製のとおり承認することといたします。

本日は、議案3件でございますが、審議に入る前に、まず、教育委員会会議規則第12条のただし書きに定められております非公開案件とすべき事項について、お諮りをいたします。

本日の議案第1号「令和2年度一般会計補正予算要求について」でございますが、「議会へ提出前である議案」であるため、この案件について、非公開とすることで、ご異議ございませんか。

(「ありません」の声)

異議なしと認めまして、議案第1号につきましては、非公開案件と決定させていただきます。

次に、教育行政について、事務報告をお願いいたします。
なお、説明・答弁につきましては、着席のままで結構です。

林学校教育部長
吉村社会教育部長

4月2日から7月3日までの学校教育部教育行政報告
4月8日から7月4日までの社会教育部教育行政報告

三島教育長

ただ今、報告のありました教育行政について、ご質問等ございませんか。

(「ありません」の声)

特になければ、以上で教育行政についての事務報告を終わらせていただきます。

それでは本日の議題に入ります。**非公開案件**であります議案第1号「令和2年度一般会計補正予算要求について」を上程いたしますので、事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長。

【非公開案件】

三島教育長

それではお諮りをいたします。議案第1号につきまして、原案のとおり決定することに、ご異議ございませんか。

(「ありません」の声)

異議なしと認めまして、本案は原案のとおり決定をさせていただきます。

次に、議案第2号「網走市立学校における働き方改革推進プランの改定について」を上程いたしますので、事務局から説明をお願いいたします。学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長

ただいまご上程いただきました議案第2号「網走市立学校における働き方改革推進プランの改定について」ご説明いたします。教育委員会資料の4ページ及び議案第2号別冊「網走市立学校における働き方改革推進プラン」の5ページをご覧ください。

本プランは、教職員の長時間勤務の解消に向けた取組等を通じて、教職員が心身の健康を維持しながら、教育活動に意欲的に取り組むことで、教育の質の向上や、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境づくりを推進することを目的に平成31年3月に策定したものです。

8月の学校閉庁日については、平成30年3月28日付通知により設定期間を「8月15日を含む平日3日間に設定する」としていたところですが、今後8月15日が週休日になる年が多くなることから、「8月15日前後の、週休日及び祝日以外の日に3日間を設定する。」と改正し、令和2年6月16日付で各校に通知をしております。

以上のことから、本プランの「学校閉庁日の設定」についての記載を、6月16日付通知の内容に変更するものです。

以上で説明を終わります。よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

三島教育長

ただ今、議案第2号につきまして、説明がありました。

これにつきまして、ご質問あるいはご意見がございましたら、お受けしたいと思っております。

ございませんか。

伊藤委員。

伊藤委員

一応、確認させていただきますが、山の日を含めれば最長6日間の連続したお休みになるという認識で間違いないでしょうか。

三島教育長 学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 はい、その年度によっては、そういうふうに設定すれば、そのようになるということです。

三島教育長 今年は、そういう設定をしている学校は出てきているか。可能性はあります。

伊藤委員 はい、わかりました。

三島教育長 ほかにございませんか。
益村委員。

益村委員 一つよろしいでしょうか。
改定の件につきましては異議ありませんが、今年コロナの状態、去年策定した推進プランの内容を3カ年の先、あと次年度だけで、今年の影響で無理なく推進プランが動かせる内容になっていますかということ、中身をチェックかけられているかということ。
内容の記載によって、いかようにも読みようはあるのだということであれば特段問題はないと思うのですが、相当授業が止まったり、働き方の状態がだいぶ変わったと思いますので、そこら辺の今年のイレギュラーな年とつくった時と状態が違うと思うので、その整合性がうまくとれているか心配になったのですが、大丈夫ですか。

三島教育長 学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 今、益村委員がお話いただきましたとおり今年度はコロナウイルス対応について各学校の状況は伺っております。ただコロナウイルスの臨時休業期間中の2ヶ月間につきましては、教職員の方も出勤ということでの出勤も長くないかどうかということについては各校の方で確認をして進めているところです。この前の教頭会での教頭の話を知るとこの臨時休業期間中は、ある程度帰宅時間が早かったということだったのですが、学校が再開して先生方も少し帰宅が遅くなってきているようですが、学校行事が今、後ろにずらされているので、それについて少し落ち着いてきている、まだ落ち着いているという状況です。今後、学校行事が今年度は後ろの方にずれておりますので、そのあたりの学校の状況等々も伺いながら、学校の方に確認をしながら検討していければというふうに考えております。

三島教育長 益村委員。

益村委員 どちらかという通常年と比べると学校の行事は少ないというイメージですか。

三島教育長 学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 はい、各校の年度当初に設定していた時間よりも各校ある程度授業時数の確保とともに少なくなっている状況です。

益村委員 はい、わかりました。

三島教育長 伊藤委員。

伊藤委員 子どもが学校に通っているのも理解しているのですが、学校によっては運動会が中止になったと、実際に報告があると思うのですが、その辺を皆さんに説明いただいた方が実態がわかりやすいと思いますが。

三島教育長 学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 今年度の運動会につきましては、教育委員会の方からも6月に通知を各校に出したのですが、今年度のコロナウイルスの状況を鑑みて例年どおりに行うことが難しいと判断されるので各校の方で延期、もしくは形を変えてできないかという検討をしたうえで、延期又は中止の判断をしてくださいというふうに各校にはお知らせをしているところです。それで各校で地域の実情と学校の状況を鑑みて中止をしたり、あるいは通常の体育の授業を保護者の方に来ていただいて見ていただく、又は放課後の午後に分散した形で行いますとか、各校がそれぞれ工夫をしているところです。いずれにしても運動会でとっていた時数ですとか、その準備にかける時数ですとかというのは今年度については、少し例年度に比べておさえているというふうに、どの学校もなっているという状況です。以上です。

三島教育長 学芸会と修学旅行についても現段階の考え方について説明しておいていただけますか。
学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 学芸会、学習発表会、文化祭につきましても今のところ学校の方には通知を出していないのですが、運動会と同じように例年どおりに実施することは難しいと考えまして、各校で地域、学校の実情に応じて判断して

いくということを運動会と同様に考えております。あとは修学旅行につきましては、どの学校も修学旅行は行うということで進めたいと思っているのですが、元々実施予定のなかった呼人小学校、それから西が丘小学校、隔年でいっている学校は、今年偶々修学旅行の年ではないと、4月当初から決まっている学校以外は時期をずらして行くことになっていきます。第一中学校のみ時期はずらさずに9月の実施で考えていると聞いています。学校によっては中学校の方は日数を短くしている学校もあるのですが、小学校、中学校とも修学旅行の方は予定どおりに行われる予定ということです。以上です。

三島教育長

行き場所については、今、学校によって様々検討をされておまして、ある中学校は札幌を避けるという判断を、今検討している学校もあると聞いています。

専門学校等に見学といいますか行っていた中学生についても、受け入れ先の学校が中々受け入れが難しいということで来ているという学校もあると聞いておりますので、どういう修学旅行にするのか、思い出となる修学旅行にということで様々検討をしてもらっているということです。

ほかに、ございませんか。

中山委員。

中山委員

宿泊施設の選び方というのも難しくなると思うのですが、各学校でコロナ対策をしているかも調べて決めているのですか。

三島教育長

学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長

その辺りの感染症対策ですとか、地域ですとか、子供たちの部屋割りをどうするかということを含めて、各学校で業者やホテルと連絡をとりながら進めていると聞いています。以上です。

三島教育長

北海道から宿泊のホテルの密集を避ける、緩和をさせるために、例えば4人部屋を2人部屋、2人ずつ泊まらせるということを検討した場合の増えた部屋に係る経費については北海道で負担しますというのが道議会での間可決したと思いますので、そういったものも旅行会社につたえながら、ホテル等の手配をしているというところです。

ほかにございませんか。

それでは、お諮りをいたします。議案第2号につきまして、原案のとおり決定することに、ご異議ございませんか。

(「ありません」の声)

異議なしと認めまして、本案は原案のとおり決定をさせていただきます。

次に、議案第3号「第4次網走市子ども読書活動推進計画の策定について」を上程いたしますので、事務局から説明をお願いします。

図書館長。

本橋図書館長

ただ今、ご上程いただきました議案第3号「第4次網走市子どもの読書活動推進計画の策定について」ご説明申し上げます。

議案書の5ページ、あわせて別冊の「第4次網走市子どもの読書活動推進計画」(案)の1ページから2ページをご覧ください。

本計画の策定は、平成13年12月に「子どもの読書活動に関する法律」が施行となり、北海道・市町村の役割として計画策定に努めることが明記され、網走市では、平成17年に『網走市子どもの読書活動推進計画(通称『あばしり子ども読書プラン』)』を定めました。

平成22年度から第2次、平成27年度から第3次と、子どもの読書活動の推進や読書環境の整備を行ってきました。

第3次の計画が、令和元年度をもって計画期間が満了となったことから、令和2年度からの子どもたちの読書環境の充実や読書活動の一層の推進を図るため、『第4次網走市子どもの読書活動推進計画』を策定するものであります。

策定に向けては、まず、昨年8月に市内の乳幼児保護者、幼稚園、保育園児の保護者、小・中・高等学校、特別支援学校の児童・生徒のご協力により各世代の読書傾向や、新たなニーズの把握を行うためのアンケート調査を実施し、3,792名から回答をいただきました。アンケート調査の結果につきましては35ページから40ページに記載しております。その後、12月に開催した図書館協議会においてアンケート調査の結果を基に策定に向けてのご意見をいただきました。

また、市の関係部署による、あばしり読書プラン庁内検討委員会を2回開催し、基本的方向性の確認、第3次計画の実施事業の課題・評価について意見交換を行いました。

策定委員会につきましては、本年1月に設立。2月と6月に網走市子どもの読書活動推進計画(本計画)の策定委員会を開催し、具体的な施策や取り組み事業の課題・問題点の意見交換を行い、計画案を策定しました。

次に計画の内容についてですが、計画期間は、令和2年度から令和6年度までの5年間です。

計画の基本方向ですが、第1次から第3次プランの基本方策を継承しており、「みんなで読書、たのしく読書、どこでも読書」の3項目を柱としまして、子どもの読書活動の推進を目指してまいります。

今回の計画では、施策・事業の成果を計る客観的な目標として、アンケート結果を基に指標を設定しております。

3ページをご覧ください。

記載しております「(1) 1か月に読んだ本の平均冊数」は基準年の令和元年より増加を目指します。「(2) 1か月に1冊も本を読まなかった児童・生徒の割合」については令和元年より減少を、「(3) 学校での読書」については、基準年と変わらず継続を目指すことを目標とし指標としました。

4ページをご覧ください。

第2章では、アンケートの結果から見た、「あばしりの子どもの読書活動の現状」を記載しております。

次に13ページをご覧ください。

第3章では、第3次プランの評価や事業実施結果の内容を記載しております。

次に22ページをご覧ください。

第4章に、子どもの読書活動の推進や読書環境の整備を図る事を目的とした、第4次の方策を記載しております。

今回のプランは、基本的には、これまでの事業を継続しつつ、見直しや改善を行い、特に子どもたちが興味を持つ、話題性のある展示や読書、学習へのサポートを充実するため、レファレンスの強化やパスファインダーの整備を行って参ります。

また、「セカンドブック」、「おとなの読書手帳」の発行や「図書館におけるデジタル化への対応」など、新たな課題について検討・取り組みを進めることとしております。

説明については以上でございます。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

三島教育長

ただ今、議案第3号につきまして、説明がありました。

これにつきまして、ご質問あるいはご意見等がございましたら、お受けしたいと思います。

何かございませんでしょうか。

三島教育長

子ども読書プランとは別に、この中に入っているのですが、全体の図書館の施策の動きとして、新型コロナで休館ということもあって様々な対応をしたが、電子図書館が非常に有効だと、他の都市では、町では活用されているということがあり、電子図書館については網走市としても2、3年前から検討しており、ここで具体的に導入するというので今行っ

ており、国からの新型コロナの交付金を使って今導入できないかということで検討を行っており、早ければ年内か、年度内には。

吉村社会教育部長

早ければ年明けにでもというスケジュール感で考えております。

三島教育長

益村委員。

益村委員

他地区、全国平均がここに出ていて、1ヶ月に読んだ本の数値がわかれば教えてほしい。網走が全国でどの位置にいるのか。小学生が極端に少ないので、恐らく学力の方と連動すると思うので、他地区の数値の高いところの取り組みをまず真似しているかということと、個人的な意見として環境を整えても読む、読ませる動機付けが必要で、いくら良い道具そろえても利活用されないと考えていて、親が、家庭の環境が本を読む環境であれば子供も真似して本を読むと考えていて、そこら辺がうまくできないと良い道具を揃えてあげても、中々有効活用がされないと考えていて、他地区のこれが良いという取り組みを、その辺を調べられているか教えてほしい。

本橋図書館長

他地区での図書館での取り組みを調べて取り入れているかということにつきましては、代表的なものではスタートブック、0歳児に渡す本のプレゼント以外で他地区の取り組みを評価したもので取り入れたものはありません。

三島教育長

全国的に読まれている地域は、どれ位読まれているかというのは持っていれば。全国平均が出ている。

本橋図書館長

全国的には調べましたが、北海道の細かい地区というのが、公表されていない部分があるので、細かくは調べていませんが、北海道は全国的に小学生は低い数値になっています。

益村委員

是非、網走の子供たちの国語力というか、底を上げるベースになるのが読書だと思うので、いいところは取り入れたい。それをやりつつ、どうやって本を読ませるか。難しいですが、本を読む習慣のない人は読まないですし、気が付いたら本読んでいる家庭で育っている子は月に何冊も読んでいると思いますし、本当に難しいと思います。ブックスタートも、今の水谷市長が一期目から施策で取り入れた事業ですし、それなりに効果も表れていると思いますが、セカンドもサードもやりましようとなっているのではなか。

吉村社会教育部長

まだ、セカンドブックもやっておりません。

- 三島教育長 セカンドもやろうとしましたが、ちょっとまってくださいとなった。
- 益村委員 そこはもったいないので、僕らも応援したいので、是非、読書の関係は、本当に他の状況で真似できることは真似して、調べられてやるのがいいのか。これは意見ですけれども。
- 吉村社会教育部長 先ほど教育長の方からデジタル図書館の話もありましたので今進めている段階ですが、元々の国の補正予算の対象としては、コロナ禍で来館を控えるような方にとっての利用サービスの一つの大きなポイントになるのですが、やはり紙ベースの図書も大切だという意見も根強くありますし、私どもとしてはデジタル図書サービスを単なる今の図書館の外版ではなく、それを新たな、本に親しみのなかった方のサービスの切り口になるようにしたいと考えています。
- 先ほどセカンドブックもありましたが、小さいお子さんを育てている方は、今回のコロナ禍もあって益々外に出づらくなっていて、神経質にもなって絵本を図書館に借りに来るのも怖いという方もいる。そのような方にデジタル絵本を使って頂く事で、家で絵本に親しんでもらって、それがきっかけになって図書館にもっと沢山の本があるとかというきっかけになって、デジタル図書の一つの特徴として外国の洋書、絵本なども英語の絵本もたくさんあるというのが特徴でもあります。ですから思い切って英語の絵本がたくさん見られる網走、ということ売りしながら、学力向上ではないですが、小さいうちから外国語に触れる、絵本にも親しむということで、結果的に本に親しんでいただくきっかけづくりとして、このデジタル図書館を進める中で、色々と仕掛けをしていけたらと。その中に益村委員がおっしゃった他地区の先進事例をうまく取り入れたキャンペーンなども一緒にいれていけば、結果的に「網走の図書館、最近元気だね。」となると思うので、本を読む推進に繋がるのではないかと今思っています。
- 三島教育長 次長、学力と読書の相関性を説明してください。
学校教育部次長。
- 小路谷学校教育部次長 今、正式な数字は私の手元にありませんが、全国学力・学習状況調査等でも読書活動については学校質問、児童質問等で調査しているところです。相対的にいいますと読書をするお子さんは学力が高いという傾向にあると考えています。網走市でつくっております網走市学力向上委員会でも読書活動の推進については以前から力を入れておまして、今年度はコロナウイルスの関係で中止になったのですが、例えば読書感想文コンクールや、各学校においてPTAの力を借りながら読み聞かせをして

いたりですとか、図書館の力をお借りして副読をしたりですとか、あとは国語の読書教材などを使い読書の活動は進んでいるところです。また網走は図書館司書が配置されていることから、図書館の環境を整えるということも積極的にやっています。
私からは以上です。

三島教育長 そのような状況になっております。

益村委員 倍近く数字が違うというのが、見ていたら癪にさわれますね。ここの数字、何とか上げられないものか。本を読まないのかなど。

三島教育長 アンケートはどういうふうにとったのか。家でよんだとか、読んだ場所はどこでもいいのか。

本橋図書館長 どこでもいいというふうに。

三島教育長 親がテレビも何も切って、子供と一緒に読書をする時間を設けてほしいということを話しているのですが、なかなかうまく進まない。社会教育の関係からも、そういった話を持って行ってはいるのですが、思うように進まない。家庭での読書は。

益村委員 時間をあえてつくらないといけないことか、この時間は本を読むのだと。学校の朝読書、あれ本当にいいなと思うのですが、それを自分で決める生活スタイルに持っていきたいですね。8時から9時の間は絶対に本を読むのだと。空いた時間に僕らも本を読みますけれども、なかなかやるときとやらないときがあって、決めごとにしてあげばいいのかなという気がしている。それにしても差がありすぎますね。

三島教育長 ほかにございませんか。
中山委員。

中山委員 ブックスタートの事業の実績で、対象者数に対して実績が少ないのは、ご家庭によっていないという形なのでしょうか。どうして対象者数に対して実績が少ないのか教えていただきたい。

三島教育長 図書館長。

本橋図書館長 ブックスタートの対象者数に対して実績者数が少ないのは、ブックスタートの本を配る際は、保健センターの0歳児検診で行っておりまして、

事前にいるか、いないかを調査をしております、その際にいないと言われる方に対してはあえて渡していない状況であります。

中山委員 多くの方が、いないと。

本橋図書館長 はい。

中山委員 なるほど。わかりました。

三島教育長 ほかにございませんか。
伊藤委員。

伊藤委員 時間を決めて読書をするのも大切だと思いますが、親の姿を見て、それにならう子供が多いので、親が普段から本を読む習慣があればそれを真似してとか、我が家では妻が読んでいる本が面白いからと子供に読ませて、子供がはまって読んでいるとかそんな循環になっているのですが、多分、プレマクラブだとか、母親学級とかで、読書の大切さをお母さんたちに伝えて、絵本なら短い時間で簡単に絵も多くて文字も少なくて、かつ僕も小学校に読み聞かせに行っていました、すごく楽しそうにしてくれるので、そんなことをお伝えして、子供のためにということを知っていただく場が必要かと思いました。

三島教育長 あまり行ってないですか、プレマクラブとか。集まり、グループから声はかからないですか。
図書館長。

本橋図書館長 プレマクラブは保健センターでやっている事業ですが、そちらの方には司書から読み聞かせは行っていない状況です。

三島教育長 何か相談をして、こういった機会を使って、今、伊藤委員がおっしゃったことをやってみるのも一つの手。

伊藤委員 呼ばれば行きます。

三島教育長 ほかにございませんか。
伊藤委員。

伊藤委員 余談になりますが、本の読み聞かせで小学校にうかがっていて朝の読み聞かせの時間に読むのですが、学びになるもの、ためになるものもいいのですが、朝のスタートなので、どれだけ皆に楽しんでもらえるかとい

うのだけで絵本を選んで読むと、先ほどお話したとおりすごく楽しんでくれたので最初に選ぶ本が大事で、楽しいところから入って、色々な面白い本の紹介があれば、そういった本から読み進めていって読書になっていくという流れもできると思うので、本の選定もご検討いただけたらと思います。

三島教育長

ほかにございませんか。

(「ありません」との発言)

それでは、お諮りいたします。議案第3号について、原案のとおり決定することに、ご異議ございませんか。

異議なしと認めまして、本案は原案のとおり決定させていただきます。

以上で提出された案件については、全て終了いたしました。

その他、案件以外で何かございましたら、どうぞご発言をお願いします。

社会教育部長。

吉村社会教育部長

毎年、陸上の競技イベントとして、網走で行われておりますホクレンディスタンスチャレンジの大会が7月15日、明後日、網走で行われます。今年は耳にされている方もいらっしゃるかもしれませんが、新型コロナウイルスの中での決断ということがありましたので、道内で4大会行われるのですが、北見市は今年は中止、士別、深川と7月の4日、8日と行われたものは無観客で行われました。そして第3回目のレースとなる網走では、日本陸連の方で観客を入れるということで、7月10日にステップ3という国の要請もありましたので、観客を入れた初めてのレースということで今検討がされているところです。観客を入れるにあたって升席のような形で屋外ですが3蜜を回避するような策だとか、声をださないように協力するとか、検温や健康チェック、そういったことをしながら観覧をしていただくこととなります。今日観客を入れてやるという判断自体は、記者の方にも説明させていただきましたので、ちょっと制約もございますが、アスリートの方は、東京オリンピックで活躍が期待される方も多く出ていますので、是非とは言えませんが、お時間があれば陸上競技場に午後3時15分から行っていますのでお願いしたいと思います。また、来られない場合でも今回は日本陸連のホームページでライブ中継が放送される予定です。インターネットで日本陸連と打っていただくと、ホクレンディスタンスライブ中継が出ますので、そこだとリアルタイムでレースを放送していますので、この網走で行われている

というライブ感を味わっていただきながら観戦していただけたらと思います。よろしくお願いします。

三島教育長 メインレースは、午後5時以降です。最終レースが男子の10,000メートルが午後7時25分からスタートです。

益村委員 飛び込みで行って観覧の申込は可能ですか。

吉村社会教育部長 検温チェックしていただければ、そのままお通しいたします。

三島教育長 野球場の方の陸上競技場の入り口から入っていただければ。係員がいますから。
ほかに、学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長 私からは教科用図書の採択についてお願いします。
今年度は、令和3年度、来年度から中学校で使用する教科用図書の採択の年となっており、現在は、小学校用の教科用図書採択と同様、オホーツク管内の18市町村共同で設置する第9地区教科用図書採択教育委員会協議会において協議が進められているところでございます。各社からは教科用図書の見本が送付されております。教育委員会事務局で保管しておりますので、是非、ご覧いただけたらと思います。なお、8月の教育委員会の会議において決定することとなっております。
私からは以上です。

三島教育長 もし見てみたい教科書があれば、是非、目を通していただけたらと思います。何かございましたら、私が採択委員となっておりますので、いつていただければと思います。
ほかに、委員さんの方から何かございませんか。
伊藤委員。

伊藤委員 二つあるのですが、先生方の働き方改革に関わることでもあるのですが、中学校の部活動、三中で減部というか減らすという検討がされているというのが、この委員会の中でも議題に上がったのですが、子供たちが色々な活動をする場がなくなっていくというのが、すごく地域の大人として忍びない思いでおりますし、地域の実情として、地域クラブでそういった競技を続けている、特にサッカーは部活動としては実施していませんが、地域クラブで実践していると認識しているのですが、あるいは陸上の種目によっては学校の先生が指導できないので、他の地域クラブの指導者に指導していただいているというような認識をしているのですが、そういった実態を一度知りたいと思っていて、その上で学校の部

活動として実施していくのか、地域クラブでそういった受け皿があるので、そこで競技を続けていく、競技を始めたりする生徒さんはそちらで出来ますというように案内していくのか、そういった整理をして考えていく必要があるのかと思っておりますので、一度、その情報の把握をしていただけたらと思っております。

三島教育長

学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長

第三中学校の部活動に関しては、今、PTAと学校の方でこれから協議を進められることは伺っております。現在、他の受け皿については、私の方では把握しておりませんので、何かの機会に確認をしていきたいと思っております。

三島教育長

流れとして、文科省やスポーツ庁の考え方として、子供の数が減ってきているという中で、中学校の部活動の在り方をどうしていくかという話が数年前から出てきておりまして、一つは先生の働き方改革もあるのですが、部活動指導員を地域の方々に学校の部活動の指導者として入ってもらうという考え方が一つ出てきたところです。これは、それなりの研修を受けていただいて、ただ技術的な指導だけではなくて生徒指導というか、子供たちの育成も含めた、生活の指導も含めた、そういった指導もしてもらう、そして引率もしてもらうという部活動指導員という制度もあります。国としてもメニューがあり導入しているところもあります。何かの部に限ってといった、そういった流れもあります。

それともう一つは、地域のクラブ、地域で子供たちの活動を行っていただくという考え方、これも出てきております。ですから学校だけではなく、地域の中で子供たちの活動をどう進めていくかということも、これからは具体的に検討をしていかなければいけないのかと思っております。

ただ実際に今、中体連の大会に出るには、中学校の部活、活動でないと中体連に出場できないので、そういう制限が掛かっておりますので、その辺もあわせて検討を進めなければならないのではという話にもなっておりますが、いずれにしても学校だけの部活動ということには、これからは、もう少し広げた中での活動になっていくのではないかと、そういったことも検討していかなければいけないと。

実際、第三中学校の話もありますが、来年も子供の数が減って、学級数が減る。再来年についても学級数が減る。一学級が減ることによって先生の数が一人だけではなく、複数の方が減っていくということもありますので、そういった中で部活動の存続を、指導者の確保がしていけるかどうか、ということで複数体制での指導ということも教育委員会としても部活動の指針の中でもうたっておりますので、そういったことを、き

ちっと複数の指導者を確保しながら部活動をやっていくという、基本を考えた時にいくつ位の部活であれば指導者が確保できるのかということとを学校として考えたときに、学校としてはやはり3つとか、4つとか、5つとか、その辺を減らしていかなければ、先生方の、指導者の確保ができないという話で、今年の12月からスタートして今、行われているのではないかと聞いております。

様々な意見、まちづくり懇談会でも、その中でも教育関係の部活動の今後の在り方、どういうふうに考えているのかというご質問もいただいて、今検討しているところなのですが、地域の方々の力を借りなければ子供たちのやりたい活動がなかなかできていかない。学校で単体で一つの部活のチームの人数がそろわないという部活動もでてきており、あちこちの合同チームでやっているという部活もでてきているという状況です。

伊藤委員

網走市単位では、合同チームはないのですか。

三島教育長

あります。バレーが合同チーム。もともとはあったが、一中のサッカー部も四中のサッカー部もなくなった。生徒が卒業してチームがなくなった。野球部も、五中の野球部が合同で、今年は単独でチームを組めるかどうか。合同も市内ではだめだとなっており、単独でチームを組めるところとの合同はだめだという制限がかかっている。組めないところの学校と合同でと。だから清里とか、斜里だとかということになる。

伊藤委員

卓球とか個人競技もだめですか。

三島教育長

個人戦だけというのものもある。団体戦は組めなくてもということはあるかもしれない。

伊藤委員

わかりました。その辺をわかっていることがわかりました。

三島教育長

その辺を整理しておきます。

伊藤委員

ありがとうございます。もう一つが漢字検定、算数検定、英語検定というのは市中の小中学校でどれぐらい進めているものなのか。というのも娘が高校に入学してわかったが、大学入学の加点となる、評価の一部になるということがあったり、市内の高校でも数学検定を受験することを推奨しているとかという話を耳にして高校に入って、上がってから重要さがわかるというか、そういうことを知って、小中学校のうちに先取りして、級を上げていくということが出来るものですし、こういったコロナ禍でも学校の先生に何かレクチャーして、何級を受けるためにテキストと問題集を買って家で勉強するということが出来る。すごく有用なツ

ールだと思っけていまして、その市中の実施状況、回数、やはり都会に比べると実施回数は少ないと認識しているその辺の実態を知りたいなど思っけております。

三島教育長

学校教育部次長。

小路谷学校教育部次長

今お話しいただいた漢字検定、数学検定については、学校に直接案内が検定業者からいって、その学校で採用するかということになるかと思っけています。どこの学校が行っけていて、どこの学校が行っけていないかということも今の段階で把握できていないので、確認することは可能だと思っけています。

英検は昨年度から I B L という道教委の方から通知もきて、英検何級程度ですかというのをテストして、その学校の子供がどの程度の英語力をつけているかを調べるのが 3 カ年計画で、去年、今年、来年というふうに行われるということは把握しております。

三島教育長

目指す目標は 3 級だったか、中学校卒業で。学校全体でレベルアップの目標持っけてやっけています。

伊藤委員

地域によってはクラスで、みんなで何級合格しようともまっけて勉強しあっけているという雰囲気づくりをしているというのも見たりしているので、評価が絶対評価で全国と比較できるというさっきのお話でもあるので、網走市としてこういっけてたものを推奨していく取っけて組みができればと個人的に感っけてしているところではす。

三島教育長

先生の目指す目標は。英語の先生は準 1 級だったか。
漢字検定は、白鳥台小、東小、四中でやっけています。これは漢字検定に取っけて組んでいる 3 校で、漢字検定の費用も一部助成している。

富永委員

白鳥台小では年 2 回やっけています。3 級から 2 級とっけてている子もいる。

三島教育長

数学検定は聞いたことがない。市民の方々が数学を教えているというか、子供たちにも数学を教えて数学検定に取っけて組みしている団体があると聞いているが、学校として取っけて組んでいるという話は聞いたことがない。実態を調べて教育委員会として取っけて組んでいくかどうか、町としてとりくんでいるところもある。それも調べてほしい。
ほかにございませんか。
中山委員。

中山委員 余談かもしれませんが、図書サークルで小学生に読み聞かせをしていた。中心的には小学1年生と小学2年生が対象で、希望があれば小学3年生にも読み聞かせをしていたが、図書サークルの始まる時間も決まっています、図書サークルが終わってから、参加した子供たちをコース別に帰すのですが、やはり帰りがらないんです。もっと本を読んでと話しかけてくるので、「お家で読まないの」と聞いても、「お母さんが忙しいから」という答えが返ってくるのが多くて、親をどう巻き込むかをちょっと考えた方が本当に良いのかなと思います。この冊数の少なさを見て。

三島教育長 親の方に読書をしていただかないと。親の読書は調べたことがない。

中山委員 本当に薄いものであれば5分もいらなく、お家で読み聞かせができる。小学1年生であれば、短いものであればちょっとコーヒブレイクの時にでもできるのかと思いますが、お母さんがお仕事から帰ってきて忙しくてそのまま寝てしまう。そこが難しいところかと思いますが、週に1冊から始めていただけたらという感じで、コーヒブレイクの短い本というのを学校のお便りの中で紹介していただくとか、なるべく親を巻き込むような形をしていかないと、増えないのではないかと思います。

三島教育長 20代、30代の本の貸し出しの状況は把握しているのか。年代別の貸し出しは把握していないか。ここにはでていないが。
図書館長。

本橋図書館長 中学生から40代までは、ほぼ図書館の利用率が一桁。実際、その世代は本の利用がほとんどされていない状況です。

三島教育長 図書館の利用は、どの辺が多い。年齢が上がってくると利用が増える。

本橋図書館長 一番多いのは60代以上で、ここが40%ぐらいを占めています。

三島教育長 なかなか厳しい状況です。買って読んでいるならいい。

益村委員 本を読んだらどうなるのか、読まなくても困らないという感覚じゃないところに持っていかないとだめだと思う。想像力が膨らむということに読書は繋がるということを、一回、味をしめないとわからない。それは本当は絵本なのかもしれないですが。

三島教育長 大人の絵本もあるのか。

本橋図書館長 あるとは思いますがわかりません。

吉村社会教育部長 社会教育事業で親と子のふれあい教室というのがあります。それは0歳児6ヶ月ぐらいから3歳の幼稚園に入る前ぐらいのお子さんを持つ親御さんを対象に、例えばスプーンの持ち方や離乳食から、4回の講座で色々な体験を10から20人の規模で講師と色々な話をしながら、子育ての悩みを聞いてということですが、そこの中で去年から読み聞かせも入れました。最初は歯の本だとか、そういうことだったのですが、読み聞かせで親御さんにも心に響くような絵本を読んでもらって、子供を抱っこした状態で聞くというようなことをすると、親御さんがすごく心に響いて絵本の素晴らしさを感じたので、絵本を図書館に行って借りるようになったとか、そういうことを聞いているので、まさに中山委員がおっしゃった親巻き込むというか、親が良さを知ると子供に伝えてくれるということは身をもって感じていますので、それを図書館とうまく連携しながらということ、学校だとか、もっと活発に行われたら、少しでも本の良さがわかる大人が増えてくるのかと感じます。

三島教育長 できるだけ本に親しんでもらいたい。

中山委員 私が小さい頃は、学校を通じて夏休み前、冬休み前に、図書の購入について学校からあったが、網走ではそういったことはやっていませんか。

三島教育長 やっていない。夏休み、冬休み前にこういう本をという紹介はしているのか。

小路谷学校教育部次長 多分、おっしゃられているのが、学校で教材屋さんが夏休みの本とか、冬休みの本とか、何冊かピックアップしたものの封筒に入れて持ってきて斡旋することはある。それについて学校で配付していることはあると思います。それ以外に、今年の夏の100冊とか、読書感想文の推薦図書とかを子供たちに推薦の図書ですということで渡しているというふうに認識しております。以上です。

中山委員 買う人がいないのかもしれないね。

富永委員 昔ありました。私も小学生のころ学校からA3ぐらいの用紙で、こういった本を夏休みの読書にどうですかというのを貰ってきて買ったことはありませんが。結構高いので。

三島教育長 段々、新聞も雑誌も読むというより見ることになっているのかもしれない。

富永委員

幼稚園児でも結構 YouTube 見ている子が多くて、本に中々触れ合うことが少ない。本よりも親のタブレットで動画見ている。中々、活字に触れさせる機会が少ない。親もそれを見せれば子供は静かにしているので、中々、読み聞かせするのはなくなっているのかと思う。

三島教育長

また皆さんの知恵を借りながら考えていきます。
ほかになれば、以上をもちまして本日の教育委員会を閉会させていただきます。おつかれさまでした。

【午後 5 時 30 分終了】